



make the heaven '10 annual report

2010年度 年次報告書

特定非営利活動法人

MAKE THE HEAVEN

動けば変わる。笑えば変わる。一緒に遊ぼう。

Contents

- 代表挨拶・・・p3
- 活動理念・目標・・・p4
- 活動概要・メイクの足跡・・・p5
- 組織図・理事紹介・・・p6
- 活動紹介
 - * カンボジア自立支援事業・・・p7-12
【MAKE THE HEAVEN CAMBODIA】
 - * 植林事業・・・p13-18
【WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL】
 - * げんきのたねまき事業・・・p19-24
【げんきのたね夢楽】
 - * 啓発事業・・・p25-29
- 物販紹介・・・p30.31
- 会員・募金一覧・・・p32.33
- 会計報告・・・p34.35



植林事業



カンボジア自立支援事業



啓発事業



げんきのたねまき事業



いつも特定非営利活動法人 MAKE THE HEAVEN を支えて頂き、ありがとうございます。2010年8月、MAKE THE HEAVEN は NGO から NPO 法人に変わりました。

MAKE THE HEAVEN の役割の一つは「はじめの一步」のお手伝いです。「カンボジアの子ども達のサポートをしたい!」「植林をしたい!」「日本の山を手入れしたい!」「不登校やひきこもりの子のサポートをしたい!」「病気を減らしたい!」などと思っている方に、こんなサポートの方法がありますということを提案しています。MAKE THE HEAVEN が目指すものは日本一敷居が低く、誰もが参加出来る NPO です。

2010 年は、カンボジア支援プロジェクト「MAKE THE HEAVEN CAMBODIA」では、スラムの子ども達を招待してジャパンツアーを開催し、多くのカンボジア人と日本人が交流しました。植林・間伐プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」では、新たに日本の森を手入れするプロジェクトを始めたり、1000 人の植林に挑戦したりしました。また、中国では木を植えるだけでなく、植えた木が枯れないように、新しいスタッフが 40 度を超える真夏に 5 ヶ月間滞在し、水をあげて守ってくれました。げんきのたねまきプロジェクト「小豆島げんきのたね夢楽」では、来てくれた人がさらに癒されるようにと、宿泊施設を一部改装、山も手入れされて美しき里山の景色が戻ってきました。

そして、映画「107+1 ~天国はつくるもの~ Part2.5」の撮影も開始しました。この映画のテーマは病気と健康です。病気が、見終わる頃には希望が沸き上がってくるような映画を目指します。

笑い楽しみながら世界中に笑顔と希望を増やしたいと思っていますので、これからも色々な形でご参加下さい。今回の東北関東大震災の復興に向け、急速、2011 年の海外での活動はカンボジアプロジェクト以外は中止にし、日本復興チーム「め組 JAPAN」を結成し、絶望を希望に変える為に全力を尽くします。今こそ共に日本復興を頑張りましょう。

代表 てんつくマン



役割の一つは「はじめの一步」のお手伝いです。

「1人の100歩より、100人、1000人の1歩」で日本から世界を元気にしていきましょう。



MAKE THE HEAVEN

理念

「思うだけでなく、考えるだけでなく、語るだけでなく、祈るだけでなく、動けば変わる」を合言葉に、笑い楽しみながら活動します。

目標

MAKE THE HEAVEN の目標は、

世界中の子どもたちの笑顔を増やすこと、森を増やして当たり前前に雨が降る地球を残すこと、そして、一人でも多くの人の心の中に元気や希望が増えるきっかけをつくることです。

「一人の力は小さいかもしれない。しかし決して無力ではない」という思いから、みんなの「はじめの一步」をサポートし、行動する人を増やすことによって、誰かが誰かの為に動き出すのが当たり前になる世の中をつくり、地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やしていきます。いろんな活動を、正義感でやるのではなく、笑い楽しみながら行動することによっていつの間にか誰かの為になっていた、そんな新しい常識を創りながら、一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯していきます。

概要

MAKE THE HEAVENは笑い楽しみながらをモットーに3つのプロジェクトを中心に活動しています。

■カンボジア支援プロジェクト「MAKE THE HEAVEN CAMBODIA」

カンボジア人の自立支援を通して、カンボジア人と日本人の心を繋ぎ、笑顔が増えるための支援をしています。

■植林・間伐プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子どもたちに届けるために、国境も年齢も性別も越え、皆で力を合わせて植林や森の手入れを実践しています。

■げんきのたねまきプロジェクト「小豆島げんきのたね夢楽」

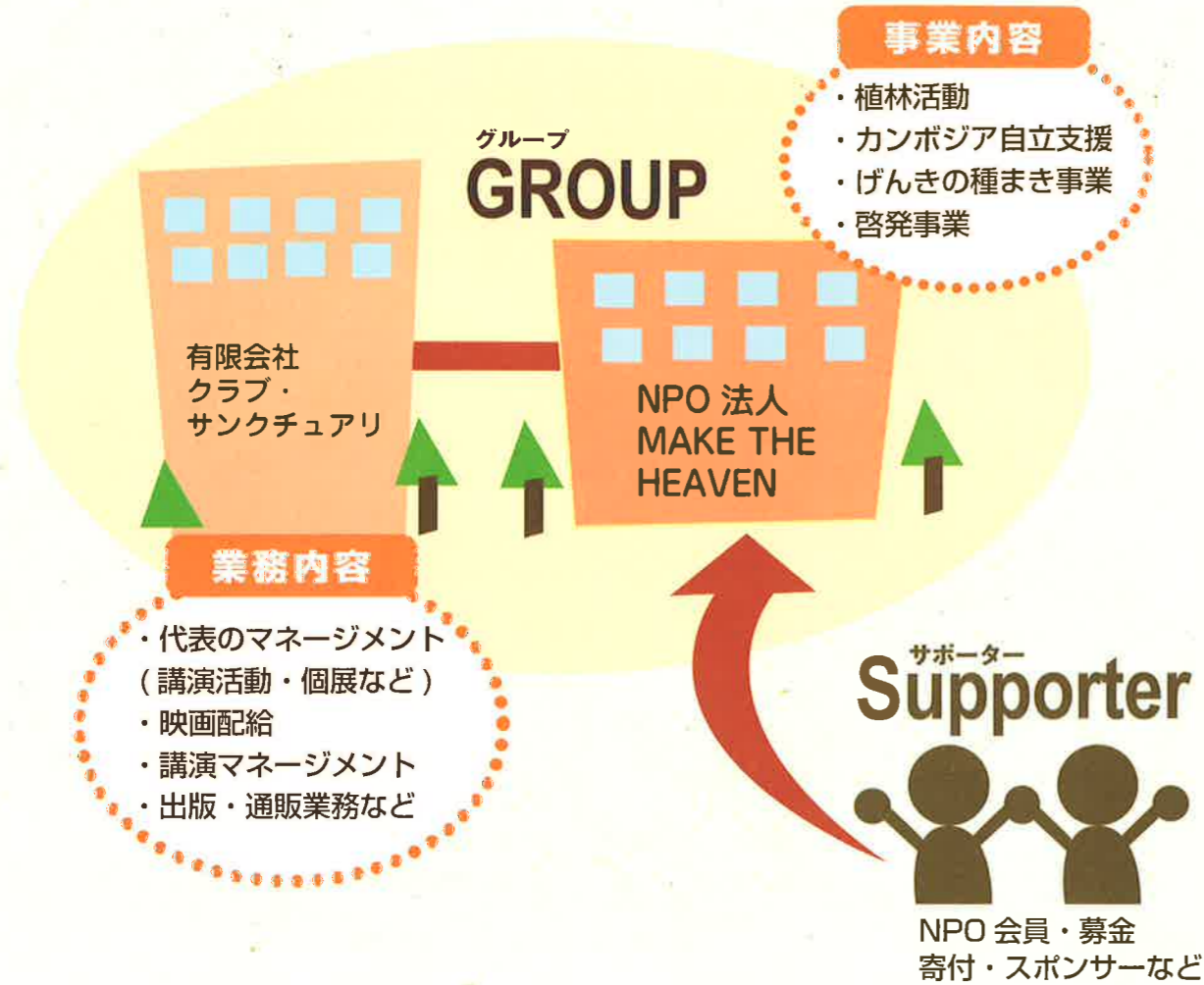
大自然に囲まれた中での共同生活や農業、モノ作りを通して、協力し合うことや助け合うことの大切さ、素晴らしさを体験してもらい、来てくれた人の元気を増やしています。

足跡

- 2004年4月 NGO MAKE THE HEAVEN 設立。 *環境問題や海外支援に取り組んだことをきっかけとして、世界の子どもの笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集り、NGO MAKE THE HEAVEN が誕生しました。
- 2004年3月 カンボジア井戸掘り支援スタート。 *2010年までに、576基の井戸を届けることができました。
- 2005年4月 植林プロジェクト始動。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催。 *2010年までに、7回の植林ツアーを行い、延べ597人に参加頂き、植林本数は46万本を超えました。
- 2005年11月 カンボジア支援プロジェクト始動。 *プノンベンを事務局設立し、カンボジアの子どもたちへ奨学金を贈る教育里親支援をスタート。2010年までに、2,358人の子どもたちが学校に通えるようになりました。
- 2006年1月 小豆島にてげんきのたねまきプロジェクト始動。 *2010年までに、延べ10,400人の方が参加してくれました。
- 2008年4月 げんきのたねまきプロジェクトの活動拠点を移転し、「げんきのたね夢楽」に改名。
- 2008年11月 植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一円募金プロジェクトを始動。 *2010年までに、800人以上の一円ヒーローが誕生しました。
- 2009年6月 ブラジル植林ツアー開催。 *25人に参加頂き、2312本の木を植えました。
- 2009年8月 第1回南アフリカ植林ツアー開催 *2010年までに、2回の植林ツアーを開催し、延べ201人に参加頂き、3,111本の木を植えました。
- 2009年11月 当法人理事長監督のドキュメンタリー映画「107+1 ~天国はつくるもの~ Part2」が完成及び公開。 *2010年までに、同映画パート1と合わせて自主上映による観客数16万人を突破しました。 *配給は有限会社クラブ・サンクチュアリ
- 2010年3月 国内植林ツアー開催。 *和歌山、熊本で行い、延べ1,290人に参加頂き、3,320本の木を植えました。
- 2010年4月 間伐ツアー開催。 *静岡、山梨、熊本、奈良で計5回行い、延べ277人に参加頂き、629本のスギ、ヒノキを間伐しました。
- 2010年8月 NGO から香川県の特定非営利活動法人(NPO 法人)に認定登録



事業内容



MAKE THE HEAVEN 役員名簿

理事長	軌保 博光	有限会社クラブ・サンクチュアリ代表取締役
理事	中村 文昭	有限会社クロフネカンパニー代表取締役
理事	大嶋 啓介	有限会社てっぺん代表取締役
理事	奥芝 洋介	株式会社 NEXT LEVEL 代表取締役
理事	松岡 宏樹	株式会社俺ん家のめし代表取締役
理事	川島 肇子	特定非営利活動法人 MAKE THE HEAVEN 副理事長
理事	椋島 実	有限会社クラブ・サンクチュアリ取締役営業本部長
監事	二瓶 明	サンクチュアリグループ監査役・統括経理



MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

CAMBODIA カンボジア支援プロジェクト

活動概況

今カンボジアでは、首都プノンペンなどを中心に目覚ましい経済成長をしている一方で、学校や井戸の不足、貧富の差の拡大などにより、雇用を得るために必要な「教育」が受けられない子どもたちがたくさんいます。

当プロジェクトは、頂いてる支援金がどんな笑顔に変わっているのか「見える支援」を大切にしながら、教育支援や井戸掘り、スラムや孤児院の自立支援などを通して、子どもたちの人生の選択肢が増え、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔が増えるきっかけをつくり、お互いに成長していける活動をしています。

2010年度もたくさんのご支援をいただき各プロジェクトを遂行できました。また、たくさんの日本人がカンボジアを訪れたり、カンボジアの子どもたちを日本に招待したりすることで、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔を増やすことができました。



足あと

- 2004年 バサックスラム支援開始
- 2004年 スタディツアー開催
2010年までに、計16回のツアーを行い、延べ378人に参加頂きました。
- 2004年 井戸支援開始
2010年までに、576基の井戸を掘りました。
- 2005年 奨学金制度ババママ支援開始
2010年までに、2312名の子どもを支援しました。
- 2005年 第1回ジャパンツアー開催
2010年までに、計4回のツアーを行いました。
- 2005年11月 カンボジアにプノンペン事務所設立
古長靴400足をごみ山で生活する子どもたちにプレゼントしました。
- 2006年3月 ブレイ克蘭村に学校を建築し、開校式を実施
- 2006年6月 バサックスラム移転時の緊急支援実施
- 2007年10月 第1回ババママツアー開催
2010年までに2回行い、延べ32人に参加頂きました。
- 2007年12月 クロサン村に学校を建築し、開校式を実施
- 2008年 クラチェ地方に溜め池完成
- 2009年 バサックスラム幼稚園建築
- 2010年 くっくま孤児院運営に向けての支援開始

■ プノンペン市内・プノンペン近郊での支援

プノンペン市内は、急速な経済発展により貧富の差が激しくなり、生活が厳しい子どもや学校に通うことが困難な子どもたちがたくさんいます。子どもたちが学校に通える奨学金制度や、スラムと孤児院への支援、ごみ山にある小学校へのお米支援など、プノンペンでは主に子どもたちに笑顔が増えるサポートをしています。

パパママ大作戦！奨学金制度

2005年に13人からスタートしたパパママ大作戦は、2010年で6年目を迎え、プノンペン市内や近郊の貧困家庭の子どもたちが、安心して学校に通えるようになりました。パパママの皆様のおかげで、学校に行きたいという夢が叶えられ、勉強を続けることができています。奨学生の写真付報告書や、本人からの手紙のお届けなど、日本のパパママとカンボジアの我が子が繋がり、家族のような温かい心の交流ができるようにお手伝いをさせて頂いています。新学年がスタートする毎年10月には、認証式に参加出来るパパママツアーを行っています。認証式では、子どもたちと触れ合ったり、日本の歌を披露したりして、学校に通える嬉しさを一緒に感じることができました。

※2010年度は、継続も合わせて555人の子どもたちが奨学金で学校に通っています。10月の認証式の際、個人的に訪問されたパパママさん数名が参加されました(2010年はパパママツアーは行いませんでした)。



バスックスラム寺子屋・幼稚園支援

カンボジアを支援をするきっかけとなったのが、バスックスラムとの出会いでした。バスックスラムには2005年から毎月支援を行っており、2010年は、ジャパンツアーでバスックスラムの子どもたちが日本に来ることが出来ました。また、寺子屋の毎月の食費(米米マン・おかずマン)や、運営する先生方のお給料、幼稚園の校舎設立、伝統舞踊の衣装や化粧品の支援などを行った他、緊急時の医療費などのサポートも必要時に行いました。

※米米マン・おかずマン共に、毎月15,000円ずつの支援をしています。

※2010年のジャパンツアーで出た収益金(支援金)によって、スラム内での食堂作りや、畑作り、障害者学校支援を行う(2011年)予定です。

孤児院支援・運営へ

プノンペン市内にあるNCCLA孤児院を運営している夫妻との出逢いを、私たちカンボジアスタッフは奇跡と呼んでいます。素晴らしい2人から色々なことを学び、子どもたちへの支援と交流をしています。定期的に物資を送ったり、スタディツアーの際に夫妻が運営するレストランやクッキー屋さんを訪れたりすることで、自立支援をしています。

2011年には、いよいよMAKE THE HEAVEN CAMBODIAの孤児院が誕生します。

その名も「くっくま孤児院」です。2011年からは、24名の子どもたちが暮らすくっくま孤児院の毎月の運営や教育のサポートを開始します。くっくま孤児院のスタッフや子どもたちに、箸袋(日本へのフェアトレード商品)の作り方を教えて、自分たちの力でも孤児院を運営できるようにサポートしていきます。

■ NCCLA 孤児院 支援内容

物資サポート：制服1人2着・洋服1人5着・靴かばん1人1つ・ノート1人10冊

教育支援：コンピューター学校・英語学校支援

■ くっくま孤児院 運営に向けての支援内容

米50キロ×16袋・おかず代1000\$・家賃支援2000\$・学校支援400\$・洋服1人10枚・歯磨き粉&歯ブラシ1人2本・ビーチサンダル1人1足・制服1人1着・伝統舞踊の楽器1つ・ミシン2台・文房具セット5セット

ごみ山にある小学校へのお米支援
日本からの支援物資

スタメンチャイ地区にあるごみ山は今ではもう使われなくなりましたが、ごみ山にある小学校へ通う子どもたちへ、毎月お米を1人2キロずつの支援しました。今後も、家族みんなが幸せになる支援を今後も続けていきます。また、スタディツアーの際に日本からの支援物資をお預かりして、古着や文房具などを各支援先の子どもたちへ渡しています。



■ブレイヴェン州ブレイ克蘭村&村近郊

村支援での最重要課題が、「自立支援」に向けての取り組みです。はじめの一歩をお手伝いする気持ちで、井戸掘りや学校建築、田んぼ多期作への挑戦やフェアトレード商品の作成などを、村の人たちと協力し合い、共に勉強を重ねながら支援しています。

学校建築事業

ブレイ克蘭村を始めて訪れた際に、子どもたちが民家の軒下でぎゅうぎゅうになって勉強している寺子屋と出会ったことをきっかけにして、ブレイ克蘭村に3教室の校舎を村人の手作りで建築しました。さらにクロサン村にも校舎を作り、村の先生方が協力して文字の読み書きや算数を教えています。基本的に幼稚園～小学校3年生レベルのまでの子が通い、4年生からは公立の小学校に通っています。2010年度は、ブレイ克蘭学校の校舎を建て替えて、支援によりレンガやコンクリートで出来た校舎が完成しました。また、毎月1回、学校の子どもたちにおかゆ給食を提供しています。

まいど大作戦！井戸掘り支援事業

2010年は、個人、会社、お店、ボランティア団体の他、音楽関係のイベントで集めてくださる方や、小・中学校の子どもたちなど、様々な方々に井戸掘り支援をして頂き、新たに166基の井戸を掘ることができました。これまで貧しい農村地では、綺麗な水を使えなかったり、遠くから運んできたりしていました。井戸ができた家族は本当に喜んでくれて、子どもたちも服を着たまま水を浴びたりして楽しんでくれます。なによりも、重労働である水運びから開放されて、子どもたちが学校に行けたり、畑を作れたりして生活自体が大きく変わっています。また、井戸掘りと平行して、今まで掘った井戸のヒ素を中心とした水質検査(計450箇所)を行い、基準値をクリアした安全な水を提供出来るよう、メンテナンスにも視野に入れた支援を行っています。また、スタディツアーや村へのホームステイをする際には、必ず井戸掘りを日程に組み入れるようにしており、水が出た瞬間の喜びと一緒にわかちあえる貴重な体験が出来ます。



ブレイ克蘭村自立支援への道のり

フェアトレード

2010年は、ブレイ克蘭村のお母さんたちが、フェアトレード商品として「箸袋」を1800枚を作り、日本で販売しています。お母さんたちの生活費補填になる他、学校の先生たちのお給料も生み出せています。今後も、村全体の自立に向けて、村人たちの努力に協力する形で新商品開発をしていきます。

鳥・豚大作戦

2010年は、ブレイ克蘭学校の敷地内に鳥小屋や豚小屋を作って、にわとり100羽、豚25匹を飼育し、鳥や子豚を買って増やそう作戦を行っています。市場に出荷出来るように、先生方や村人たちが交代で小屋を管理しています。

田んぼ多期作計画

2010年は、支援によりブレイ克蘭村に、トラクター耕運機と井戸を1基ずつプレゼントしました。乾季にも農業が可能になり、年に2～3回お米が収穫できました。2011年は、多期作でできたお米をプノンペン市内の支援先に届けてお互いに助け合う関係を作っていく予定です。また、耕運機を近隣にレンタルすることで、レンタル料を村の収入源にしていくことも考えています。



クラチェ地方溜め池支援

2009年にクラチェ地方の村に、溜め池(25m×15m×3m)を掘りました。現在、溜め池周辺の田畑に潤いを与え、バサックスラムに農作物を支援できる方法を模索しています。2010年は溜め池のまわりを開墾して、野菜などの栽培ができるよう手入れをしたり、芋や米などを実際に育てたりしました。しかし、その土質に作物が合わなかったり、溜め池を作った土地の家族だけでたくさんのお米の収穫を得ることが難しくなったりしました。2011年は、バサックスラムとクラチェ地方の村人が協力し、この田畑で採れたお米や野菜で自立していくことで、バサックスラムへの支援と村の活気作りをしていく予定です。

スタディツアー・現地コーディネート事業・日本語教師インターン

これまで、2004年から延べ16回のスタディツアーを行いました。2010年は2回開催し、沢山の日本人がカンボジアに来て、各施設の子どもたちとの交流や、村でのホームステイ、井戸掘り体験などをしました。カンボジアの子どもたちと一緒に生活することで、今を一生懸命生きる子どもたちの笑顔に癒され、刺激をもらい、最終日には何人も参加者さんが涙を流して帰っていきます。また、2010年は初めての親子ツアーを行い、4組の親子が参加しました。親子ツアーは、子どもがいるからカンボジアなんて行けない、と思っているお母さんたちに、カンボジアの子育てやカンボジアの子どもたちと触れ合っほしいという想いから開催し、ツアー中は子どもたちを孤児院で預かり、お母さんは思う存分ツアーを満喫してもらいました。スタディツアー以外でも、友人を連れ立ってのミニツアーや、個人旅行の延長でのカンボジア訪問などのコーディネートも随時行い、学生さんの卒業旅行や、会社での社員旅行にも利用して頂きました。また、日本語教師のボランティアを募集して、スラムや孤児院の子どもたちへの日本語教室を開催し、貴重な体験を開催しました。



MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

カンボジア支援プロジェクト 2010年事業報告
スタディーツアー参加者の声

U.Mさん 男性 (23)

率直に言うと、本当にスタディーツアーに参加して良かったです。毎日が濃かったし、日本では出来ない出会いや体験が自分にとって一生の宝物です。過去 15 回もスタディーツアーを行い、多くの参加者が参加しているということはそこに人生に影響をあたえる何かがある、そして色々な想い、バックグラウンドを持った人々が日本全国から集まり、一緒に異国で行動することは行動することは自分にとってかなりの貴重な体験になると思いました。自分一人で来ていたらたったの 9 日間でこれだけの日々をすごせなかったです。だから本当に参加して良かった！そしてカンボジア超～良い国でした。人々は親切、笑顔が素敵、食べ物はうまい、物価が安い、いろいろな国の人が集まっている。日本では知ることの出来なかったことが次から次へとあって、もっともっとカンボジアを知りたいと思いました。

O.Sさん 女性 (54)

本当にあっという間の 10 日間だった。本当に楽しくて楽しくて、カンボジアもここで出会った人も大好きになりました！！ MAKE THE HEAVEN 最高！！ここで出会ったいろんなこと、人、感動を忘れずに日本に帰っても自分の心に正直に生きて！、本当にスタッフさんありがとう！！心から感謝します！！念願のスタディーツアーに無事参加でき、最高に嬉しかったです。キラキラ輝く瞳の子どもたちと、優しく温かくてたくましい大人たちにいっぱい出会うことができ、どこへ行ってもすてきな笑顔でした。なんとすてきな国なのでしょう。ますますカンボジアにはまってしまいました。今回、仲間達との旅行は団体で行動する楽しさ、船に乗ったり、村の学校での運動会や、ゴミ山の学校へのお米支援で、お米と一緒にトラックの荷台に乗ったり、オークションをしたりと、色々経験させて頂きました。森源太さんのギターに合わせて、子どもたちが大きい口をあけてキラキラした瞳で元気に歌う姿に、カンボジアと日本がつながっていることを実感しました。私も日本でもうひとがんばりするぞ！！ますます元気になることができました。



Mさん 女性 (28)

カンボジアの子どもたちといると本当の自分に帰れる気がしました。自分の思うままに素直に生きている子どもたちに出会い、子どもたちがキラキラしている理由は、「素直」さだと思いました。うれしいことはうれしいと表現して、好きなことは好きと伝える。恥ずかしがることなく、それを表現できる国なんだと思いました。日本でも自分に正直に生きている人はみんなキラキラしている。日本の子どももカンボジアの子どもと同じようにキラキラになれる。日本の子どもたちをもっとキラキラにする方法は、まずは大人がもっと自分の気持ちを表現して、子どもたちが素直に表現できる場所をいっぱい作ってあげることだなぁって思いました。いつからか、人前で素直に表現することをはずかしいと思う心が芽生えてしまった・・・でも、カンボジアに行くとそのはずかしいと思う気持ちはいつの間にか吹っ飛んで素の自分に逢えます。素の自分に帰れるカンボジアへまた行きたいなぁって思ってます。本当に本当にありがとうございました。

WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL TREE IS PLANTED 植林・間伐プロジェクト

今世界中で気候の変化により雨が減っています。人間がこのままの生活を続けた場合、更に雨が減って、食糧生産量は減り、食糧危機が起こり、結果、水の奪い合いの戦争が起こると予想されています。これからは、人々が競いあったり奪いあったりするのではなく、心をつにして力を合わせる時だと思います。

当プロジェクトは、「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子どもたちに届けるために、国境も年齢も性別も越えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動や一本でも多くの自然林を守る活動、そして、一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動をしています。

2010年は、一元募金を広める活動の他、海外では昨年に引き続き中国と南アフリカで、国内では和歌山と熊本で植林ツアーを行いました。ツアーを通してたくさんの方が参加し、心と心の交流を大切にして、たくさんの方と力を合わせて、笑い楽しみながら「緑」と「希望」を増やすことができました。



足あと

2005年4月 第1回中国内モンゴル植林ツアー

2009年まで毎年4月に開催、2010年から4月と9月に開催。
2010年までツアーを7回開催しました。

2008年11月 植林事務局をWONDERFUL 植林 FESTIVALと命名。
新たに事務局を設置。同時に一元募金プロジェクト開始。
2010年までに一元ヒーロー 805名達成しました。

2009年6月 第1回ブラジル植林ツアー開催

2009年8月 第1回南アフリカ植林ツアー開催
2010年に第2回植林ツアーを開催しました。

2010年3月 第1回和歌山植林ツアー開催
2010年10月に1000人の熊本植林開催しました。

2010年4月 第1回間伐ツアー開催
2010年は静岡、熊本、奈良にて合計5回の間伐ツアーを開催しました。

■ 植林プロジェクト概要

どうしたら当たり前雨が降る地球を未来の子どもたちに残せるだろう？その答えの1つが植林でした。木を植えると、雲ができて雨が降ります。そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。そして、2008年には「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL(以下ワンフェス)」と名付けて、新たに事務局を設置し、「一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦」を開始しました。2010年は、一円募金活動の他、海外においては中国、南アフリカ、国内では和歌山、熊本で植林ツアーを行いました。

一円募金～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。一円募金を通して、『一人一人の力は微力でも決して無力ではない』『みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる』ということ伝えていきます。そして、一円玉を見るたびに『これでまた緑が増える！』という『一円玉＝緑』の意識をまずは日本から広めています。また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人一人が世界を変えるヒーローになろう！という想いから、一円玉を集めてくれる人を『一円ヒーロー』呼び、一円マン、一円レディ、一円レンジャー、一円ステーション、の4つのヒーローを募集しました。

【2010年の実績 登録人数：115人(チーム) 募金額：3,102,179円】

【2010年までの累計 登録人数：805人(チーム)



募金額：7,902,682円】

植林ツアー報告

■ 中国植林

2010年4月と9月に、第6回、第7回中国内モンゴル植林ツアーを行いました。4月のツアーでは、小学生や高校生が参加し、若い世代にも大地に木を植える喜びや楽しさを伝えることができました。また、ツアー中に音楽祭を開催し、国籍の壁を越えて日本人と中国人が1つになり、共に地球を大切にしていこう気持ちを共有しました。そして、4月のツアーで、沙漠化の大きな原因の1つになっているカシミヤヤギの侵入を防ぐために、全長5kmの柵を設けた結果、9月のツアーでは、これまでほとんど草が生えていなかった大地が草原に生まれ変わっていました。一度『砂』になってしまうと、『土』に戻るのに20～30年掛かると言われています。今後も、比較的回復力のある場所から着実に緑の土地を拡大していく活動を行っていきます。

植林駐在員誕生! 2010年4月、中国内モンゴルに初の海外駐在員が誕生しました。春から秋までの半年間、植林や植林後の水やりなどを行い、毎日ブログにて報告を行いました。



■ 南アフリカ植林

2010年11月に、第2回南アフリカ植林ツアーを行いました。今、南アフリカでは原生林が2%しか残っておらず、その2%の森が残っている地域にあるチチカマ国立公園で、森林再生プログラムとして植林を行いました。また、前年度に引き続き、南アフリカのNGO「FOOD&TREE FOR AFRICA (FTFA)」が展開しているパーマカルチャー教育プログラムに参加して、小学校で子どもたちと一緒に菜園作りを行いました。国境を越えて、みんなで力を合わせて「今、自分にできること」を実践しました。



■ 和歌山植林

2010年3月に、和歌山植林ツアーを行いました。和歌山植林ツアーでは、たくさんの方が一緒に木を植えることを通して、人生に1歩踏み出せたり、同じ想いの仲間と出会うことで何かが変われたりするような、きっかけづくりの植林を行いました。また、ゲストミュージシャンによる音楽ライブや、竹を使ったワークショップを行った他、世界遺産の熊野古道を歩き、自然を大切にすることを育む体験をしました。

■ 熊本植林

2010年10月に、熊本植林ツアーを行いました。熊本植林では2泊3日の合宿を行い、植林、講演、ライブを通して自然と共に生きる大切さを学び、みんなで夜遅くまで語り合って深い心の繋がりを作ることができました。また、2日目には600人規模の講演会を行い、「夢を持つことの大切さ」や「夢を叶えていくすべ」などについて学ぶことができ、たくさんの方がはじめの一歩を踏み出すきっかけを作りました。そして、最終日は「EARTH CHILD 2010～1000人の植林チャレンジフェスティバル～」と題した1000人規模の植林&野外ライブフェスを予定していましたが、あいにくの雨天となり、予定していた植林は途中で中断、ライブも体育館で行う結果となりました。当初の予定通り進行できず、主催者として至らない点が多々ありましたが、雨を通して、みんなで助け合うことの大切さや素晴らしさ、自分と同じ想いを持っている仲間がたくさんいることを実感してもらい、夢に向かって一歩ずつ動き出していこうという想いを共有して1つになることができました。



ツアー詳細

ツアー開催地	日程	参加人数	年齢	植林本数	樹種
和歌山[第1回]	3.12～15	183	2～29	770	イチイガシ・ウバネガシ・コナラ・トラハ・クロゲナモチ・ウバメガシ
中国[第6回]	4.16～18	43	10～75	82,050	ポプラ・柳・タマリスク・スナナツメ・寧条(ニンキョウ) 山杏・黄柳・ニレ
中国[第7回]	9.7～12	29	18～61	29,000	砂柳・タマリスク・砂藜(ナツメ)・ポプラ
南アフリカ[第2回]	11.5～17	82	0～64	2,000	果樹を植樹
熊本[第1回]	10.22～24	1,107	0～79	2,550	クスギ・ヤマザクラ・イロハもみじ・ヤマグリ・コナラ・ミズナラ アラカシ・シラカシ・スタジリ・クスノキ・タブノキ

■ 間伐プロジェクト概要

2010年、ワンフェスでは新たに国内での森の手入れを始めました。今、日本の森はほったらかしにされ、元気がなくなってしまっていること、それが原因で大雨の時に災害が起きていること、そして、森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育てるように間伐をして光を届ける必要があることを知りました。ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法として NPO 法人「森の蘇り」のきらめ樹間伐を取り入れました。一人でも多くの人に森の現状を伝えることで、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一步」のきっかけを提供しています。

■ 間伐ツアー報告

2010年4月から8月にかけて、日本各地で間伐ツアーを行いました。間伐ツアーでは、NPO 法人「森の蘇り」の指導のもと、日本の森、世界の森の現状と間伐の基礎を学び、実際に森に入ってきらめ樹間伐を実践しました。きらめ樹間伐は、チェーンソーや重機を使わず、ノコギリだけで楽しく間伐することができるため、子どもからおじいさん、おばあさんまで、幅広い年齢の方々に参加して頂き、たくさんのお子もたちの笑い声が森の中に響きました。また、間伐ツアーは植林ツアー同様、様々なゲストと交流することができます。全てのツアーで、「音楽で世界を平和にしたい」、「笑顔を増やしたい」と活動しているミュージシャンのライブを行い、愛のある歌声で参加者同士の心の距離を近づけ、感動や安らぎを与えてくれました。他にも、自然と共に生きていくことの大切さやすべを学ぶトークライブを行ったり、森の中で自然と一体になるヒーリングやヨガを行ったりして、自分たちが自然の一部であることを実感してもらいました。そして、最後には参加者、ゲスト、スタッフを交えての感想会を行い、お互いの想いを共有して家族のような深い絆で繋がる仲間となって、ツアーを終えます。参加者の中には、ツアー後も連絡を取り合って地方ごとに集って交流したり、地元の森の手入れを始めたり、自分の夢に向かって動き出したりするなど、ツアーをきっかけにして一歩を踏み出した人もたくさん生まれました。2011年からは、間伐ツアーだけでなく、より多くの人に日本の森、世界の森の現状を知ってもらい、森を守り、蘇らせるためのプロジェクトを開始する予定です。



きらめ樹間伐の流れ

- 1 暗い森 手入れされていない森は真っ暗!
- 2 皮むき ぼくでも、わたしでもできちゃう
- 3 自然乾燥 1年~2年自然乾燥させます
- 4 運び出し 乾燥して軽くなってるので、重機なしで運べちゃう
- 5 木の活用 素敵な香りの木材に変身! 木材を使うことも森を守る事につながる!



ツアー詳細

ツアー開催地	日程	参加人数(人)	年齢(才)	間伐本数(本)	概算面積(m ²)
富士周辺 [第1回]	4.16~18	50	1~69	98	613
熊本 [第2回]	5.15~17	78	2~49	104	650
富士周辺 [第3回]	6.11~13	40	3~61	118	738
奈良 [第4回]	7.9~11	74	1~60	250	1563
静岡 [第5回]	8.26~28	40	1~61	59	369

※「間伐本数」は、「概算面積」を元に、100㎡で16本の間伐を行ったと想定して算出しました(植林後一切手が入っていない放置森林では、間伐効果を10年間維持するためには、全国の平均的な森林施行で3000本/ha植えられているスギ・ヒノキのうち、約1600本を間引く必要があるため)。

静岡間伐ツアー (30 代女性)

たった 3 日間のツアーでしたが、あまりにも充実していたこと。そして、出逢った皆さまのあたたかさを今、これを書くにあたり、あらためて噛みしめています。本当に思いきって決断して良かったなあ…と心からそう思っています。下の息子は先日、『木を見ると、皮をむきたくなる〜』と山に向かって言っていました。(笑) それもどうかと思いますが〜(汗)。帰ってから上の息子から『本当に良い誕生日プレゼントありがとう』と言われました。(上の息子さんはツアー中に誕生日をむかえました) 間伐の体験は、もちろん彼の中に一石を投げ、確実にこれから大きく波紋をひろげていってくれるきっかけになったと信じてやみません。それ以上にたくさんの方々との『出逢い』もまた、彼にとっては大きな喜び、学びになったのでは、ないかと思われまます。また皆さんにお会いできる日を楽しみにしております。本当にありがとうございました。

中国内モンゴル植林 (20 代女性)

今の地球の状態を自分で確かめたくて、参加しました。初めて見る砂漠、延々と広がる草地などすごく圧倒されました。初植林をしてみて、愛情込めながら掘って埋めて、全部自分でやり終えた時、あらためて木の大切さを感じました。マイ箸を自分では持っていないも、周りには呼びかけてない自分とはさよならしたいと思いました。『一人の力は小さいけど無力じゃない』って皆が植林している姿を見て思いました。たった 7 日間でしたが、ここまで笑って泣き合える仲間に出来たことに感謝いっぱいです!



熊本間伐ツアー (38 代女性)

夫が 5 年前に躁うつ病を発病して、その後仕事に復帰したものの、再び去年の 8 月に再発、入院となりました。症状がひどくなって家族みんなで暮らすことも危険な状況で入院となった時に、私が登録していた自然育児サークルからのお知らせで、1 月のてんつくマンの長崎県島原市でのイベントを知り、思い切って入院中だった夫を誘って行きました。てんつくマンの映画とトーク、イベントに携わるスタッフのつながる力、「みんなで」楽しく動くということを知ってから、夫の生き方をシフトさせたい、させなくては自分も地球もだめになるという思いが芽生えたように思います。それと共に、自分だけのために生きることがどれだけ、周りを苦しめ、自分自身もしんどいものかを私も夫も気づかせていただきました。人は大切な人のためになら生きる力やパワーがわいてくるのだなあと教えてもらったように思います。このイベントも参加した人がみんな輝いていてなんとも居心地のよい空間でした。人はつながってなんぼだな〜と再認識させてもらいました。最初から最後までみんなを暖かく見守ってくれてたてんつくマン、そしてスタッフのみなさん、大好きです! 本当にありがとう〜!! ワンフェスはぜひ日本中で続けてください。「長崎でもやりたいな〜」と思っています。できることを探してみます!

げんきのたねまきプロジェクト

KIND OF VIGOR
げんきのたねまきプロジェクト

今日本では、動き出すきっかけを見つけれない人や、元気が小さくなっている人、孤独感を感じてる人が増えています。また、食糧自給率の回復や食生活の見直しも重要な課題になっています。当プロジェクトは、昔ながらの共同生活やお米、野菜づくり体験してもらい、来てくれた人が元気になってはじめての一步を踏み出すきっかけづくりや、農や食の大切さに触れるきっかけづくりをしています。2010 年も、参加してくれたたくさんの方が、共同生活や農業、モノづくり、宿舎の改装作業などを通して、元気になったり、明日への一步を踏み出すきっかけを見つけたり、やりたいことが見つかって動き出したりしました。また、2006 年からはじめた無農薬無化学肥料のお米づくりで、今年収穫した玄米を使って玄米コーヒーの商品化を実現しました。



足あと

- 2006 年 1 月 小豆島でげんきのたねまきプロジェクト開始
- 2006 年夏 廃材でつくった舞台 SORA 完成
- 2006 年秋 初めてつくった有機農業のお米を収穫
- 2006 年度は、約 1,400 名が参加しました。
- 2007 年春 廃材でつくったお風呂完成
- 2007 年春 新しく田んぼをお借りして、田植え
- 2007 年秋 手づくり麦味噌 100 キロ仕込む
- 2007 年秋 有機米 500 キロ収穫
- 2007 年度は、約 1,000 名が参加しました。
- 2008 年春 新たに田んぼを増やし、田植え
- 2008 年春 釜戸完成
- 2008 年 5 月 うた植え祭り
- 2010 年までに 3 回開催しました。
- 2008 年 8 月 旬夏集島イベント
- 2010 年までに計 2 回開催しました。

- 2008 年 9 月 稲刈り祭 もち米、玄米合計 800 キロ収穫
- 2010 年までに 2 回開催しました。
- 2008 年 9 月 麦味噌作り 270kg 仕込む
- 2008 年 11 月 ビザ窯完成
- 2008 年 12 月 大忘新年会
- 2010 年までに計 3 回開催しました。
- 2008 年度は、約 3,600 名が参加しました。
- 2009 年 2 月 リニューアル合宿
- 2009 年度は、約 2,900 名が参加しました。
- 2010 年 8 月 カンボジアジャパンツアー
- 2010 年 10 月 塩小屋アートプロジェクト
- 2010 年度は、約 1,500 名が参加しました。
- 2010 年までに延べ 10,000 名以上が参加しました。

■はじめ農いっぽ事業概要

げんきのたね夢楽（以下：げんたね）では、ド素人からでも、無農薬のお米作りや野菜作りに挑戦できるように、畑で汗を流して、農を体験するきっかけの場を提供しています。植える喜び、育つ幸せ、実る大切さを、日常の中で実感してもらい、農を通して心も身体も喜び、土に触れることが楽しくなるような体験をしています。げんたねでは、始めてクワを持って土を耕す感覚や、日々成長する農作物から感じられることを大切にしています。また、農作業をしながら、いろいろな話しをすることで、気付いたら家族のような繋がりが生まれていたりします。2010年度は、畑では、5月に玉ねぎ、7月～10月にトマトや茄子、オクラ、キュウリ、かぼちゃ、サツマイモなど、10月～12月に大根、人参、チンゲンサイ、タマネギなどを収穫しました。冬にはたくさんの大根を収穫でき、日々の料理と漬物などにも利用しています。里山部分では、しいたけ栽培に挑戦しており、新たに100本の原木を設置し、一昨年設置の原木からは大きなしいたけが収穫できました。田んぼでは、春の田植イベント「うた植え祭」、秋の収穫イベントの「稲刈りん祭」の2本を軸に、参加者さんと一緒に手植え手刈り楽しみながら農作業をして、無農薬の安全で美味しいお米を収穫することが出来ました。2010年の収穫量は326kgで、内100kgは玄米コーヒー「ありがた稲～」にして販売しました。

調味料作り

日々の食事で使う醤油作りと塩作りをしています。醤油は、年に一度、昔ながらの製法で仕込んでいます。2010年は225ℓ(75ℓ×3樽)醤油を仕込むことができました。この体験を通して、調味料の奥深さや食への関心を高めると共に、みんなで力を合わせて仕込んでいく喜びを体感できました。塩は、2010年2月に、新たに塩釜と塩小屋を設置して、昔ながらの「揚浜式」製塩方法で塩を作っています。塩作り体験や施設見学を通して、参加者に塩や調味料の大切さを知ってもらい、一緒に作り上げる満足感を味わってもらいます。



体験

2010年は、農業や、調味料作り、モノ作りの他にも、まき割り、釜戸でのご飯炊き、五右衛門風呂炊き、自然食料理作り、げんたねの敷地内にある山菜採りなど、昔の日本人が日々の生活の中で行っていた様々な体験活動を行い、自然の中で暮らすことの素晴らしさや、当たり前に使っているモノのありがたさを伝えました。



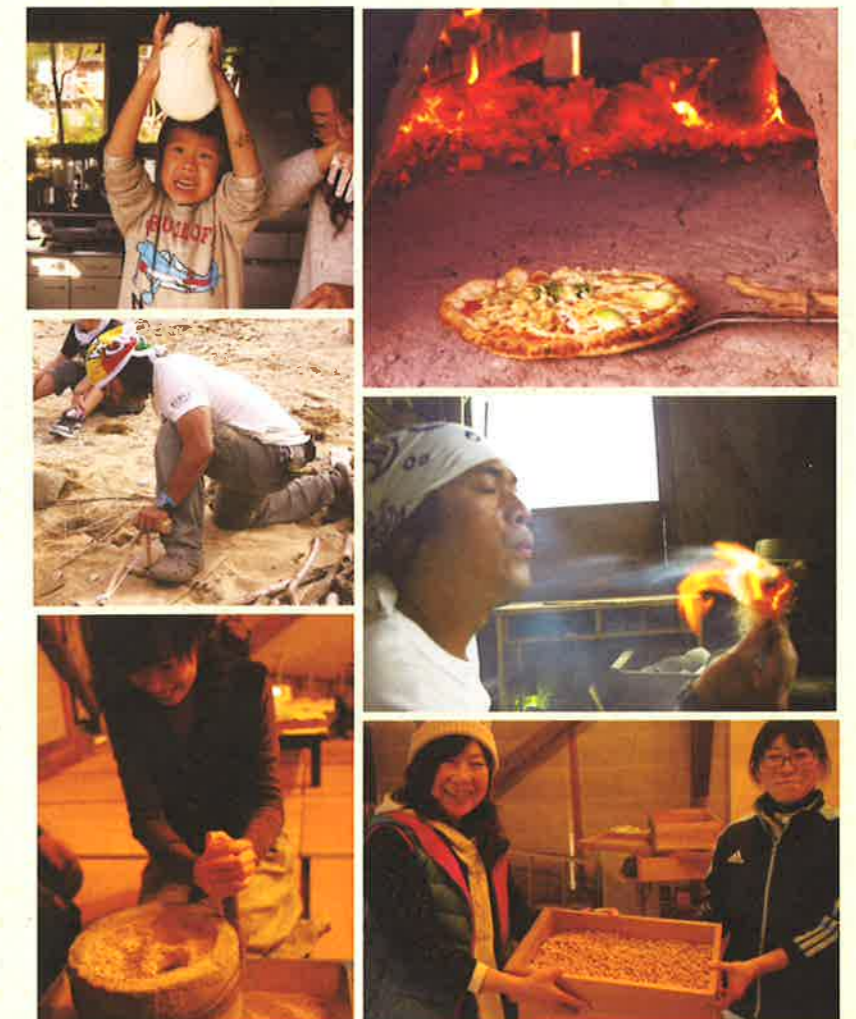
イベント

2010年は、てんつくマンと語るかい、うた植え、旬夏集島、稲刈りん祭、大忘新年会、新潟のツアー、てんつく侍塾など特色のある様々なイベントを開催し、たくさんの人の元気を増やし、はじめの一歩のきっかけを提供しました。



ワークショップ

2010年は、火起こし、薬膳スパイスカレー作り、石窯ピザ作り、陶芸、塩作り、など様々なワークショップを行いました。中でも、火起こしワークショップは、原始的な火起こし方法をレクチャーして、普段何気なく使っている「火」を自分の手で産み出すことで、火がいかに大切でありがたいものなのかを体感してもらいました。火起こしを通して、自然の中で生きる心構えや自然からの恩恵を伝え、子どもには、みんなで協力する大切さや火の怖さも伝えました。また、スパイスカレー作りワークショップでは、その時にげんたねで収穫された野菜やお米を中心に使い、市販のルーは一切使わずに、自分たちでスパイスを調合してカレーを作ることで、たくさんの人の心、身体、舌を元気に幸せにしました。



M.Yさん 男性 (20) 千葉より

千葉から来ました!!千葉、東京に比べると時間の流れがゆったりしていました。食事もカレーやうどんなど、みんなで食卓を囲むとすごく、すごく心が満たされました。皆の笑顔、おふざけを見てるとこっちまでうれしくなる。千葉、東京には満たされないことが「げんたね」では満たされました。ここで元気をもらって、もう一度がんばろう!!行くぞ!!ふんばるぞ!!まだ、まだ自分をすべてさらけ出せない所があるけどいずれ、出していけると思えました。とりえず、仕事のもやもやをふっとばす!!ここは楽しく、あたたかく、元気をくれる場所です。本当にありがとう!!

H.Tさん 女性 (40) 香川県より

初めてげんたね夢楽に親子で来させてもらいました。

突然参加させてもらったにもかかわらず、皆さんがとっても優しく自然に受け入れて下さって…あっという間に自分もげんたね夢楽の一員になった気分です!自然にいやされ、みなさんにいやされとても、ぜいたくな一日を過ごさせて頂きました!こんなに近くに、こんなに素敵な空間があったなんて…こんなにも素敵な仲間の集まりがあったなんて…私たちはとってもラッキーだと思いました!!長崎から高松に転勤してきて、良かったあ、と心の底から思えた一日でした!また是非、来させてもらいたいです!人のご縁で、ここまで導かれてきたような気がしてましたが、本当に人のご縁は有り難いものです!自分一人では決して、乗り越えられなかったようなことでも、誰かの一言で、希望が見えて、勇気やエネルギーがわいてきて乗り越えられます!この場所は、長崎と同じ位、大切な場所になりました。また来ます!宜しくお願いします!皆様に、心からありがとうの気持ちを込めて。



A.Kちゃん (10)

私は岡山からの参加で、ここに来たのは、2回目です。私が一番楽しかったことは、海のすなはまに、石で、フタを作ったことです。あと、草ぬきです。『草 かり』で草をかったことです。かえてきて、『モコ』と、ちょっと遊んでいたら、友達のアリサの方に行ったので、焼きもちを焼きました。でも、とってもかわいかったです。*モコは犬です。

I.Hちゃん (9)

げんきのたねむらのみんなへ

あそんでくれて、ありがとう。お風呂も気もちよかったよー。また、いつか来るね。みんなに会える日をたのしみにしてるよー。また遊ぼうねー。本当に、げんたねサイコー!

啓発事業

ミュージシャンとの契約・MAKE THE HEAVEN 映像部
インターン受け入れ・ツアーやイベントの開催

MAKE THE HEAVEN は、他にも様々な活動を笑い楽しみながら行っています。ジャンルにとらわれることなく、世の中の素晴らしい人や活動を広めていくサポートすることで、笑顔や元気や希望を増やしています。2010年度はロックバンドおかんと契約や映画「107+1 ~天国はつくるもの~ Part2.5」の撮影を開始した他、日本や海外で多くのツアー、イベントの実施、インターンシップの受け入れをしました。





■活動概要

今日本中で、心の病を抱えて自ら生きることを諦めてしまう人や、明日への希望を見出せない人が増えています。おかんは、「命あることの素晴らしさ」や「生きていることの幸せ」を感じてほしいという思いを歌にして届けていくことで、日本中に元気や笑顔を増やす活動を行っています。2010年は、CDの販売の他、全国各地で約100回のライブを行って多くの人の心に希望を与えることができました。

■活動報告

2010年は、2月、3月とCDを連続リリースし、2008年にリリースした『人として』が2010年で6000枚、延べ10000枚を売り上げました。また、北海道から沖縄まで全国各地でライブを行い、ライブハウスでの演奏や、COMING KOBEなどのライブフェスへの出演の他、「家族で聴いてもらえる唄でありたい。人と人を繋ぐバンドでありたい。」という思いからショッピングモール、映画上映会場や活動家・起業家の方々の公演会場、結婚式会場や老人ホームなど様々な場所で演奏を行い、日本中に希望を届けて元気と笑顔を増やしました。2013年の大阪城ホールワンマンライブの実施を目指し、これからも、歌を通してたくさんの人に希望を届けていきます。



足あと

- 1996年 ボーカルDAI、ギターYOU、ベース本東地の3人でバンドを結成
- 2000年 当時、バンドの一番のファンだった友人の突然の死をきっかけに、オリジナル楽曲を製作し、ライブ活動を開始
- 2004年 メンバーチェンジの末、ドラム成を迎えて現在のメンバーに
- 2008年 おかんの代表曲「人として」の発売開始/関西「ショッピングモールツアー」開催
- 2010年1~3月 カモンツアー（映画「107+1~天国はつくるもの~ Part2」の上映ツアー）にて会場でライブ
- 2010年5月 MAKE THE HEAVENと専属契約
延べ6万人を動員した神戸最大の無料フェスCOMING KOBEに5年連続参加
- 2010年7月 TSUTAYA コーズブランドDVD テーマソングに『INDEPENDET』が採用
おかんRadio(収録曲：人として、向日葵)をリリース/梅田AKASOにて自主イベントを開催し、約200人を動員
- 2010年8月 東京渋谷GLADにてワンマンライブ、250キャパの会場をソールドアウト
- 2010年12月 2008年リリースの「人として」が6000枚突破し累計で約10000枚をセールス
- 2013年 大阪城ホールで1万人を動員する単独ライブを実施する予定

■活動概要

今日本だけでなく世界中で、毎日のように悲しいニュースが流れています。映像部では、映画は世の中にある希望をたくさんの人に伝える最高のツールという想いから、伝えたいことをただ真面目に伝えるのではなく、一人でも多くの人を受け取りやすいようにエンターテインメントとして伝えていくことで、映像を通して世の中に希望や元気や笑顔を増やす活動を行っています。2010年は、医療関係者を始め多くの方々取材し、たくさんの希望を見つけることができました。

■活動報告

2006年から製作を開始した映画「107+1~天国はつくるもの~ Part2」が2009年に完成し、これまでに35,000人以上を動員して、世の中に希望や元気や勇気を増やしました。しかし、日本中で病気が増え続けていて、国家予算38兆円に対して医療費が34兆円かかっているという事実を知り、病気で苦しむ人を少しでも減らすことができたらと、2010年7月、映画「107+1~天国はつくるもの~ Part2.5」を製作するために映像部を再発足しました。そして、全国で希望や元気や笑顔を増やす活動をしている活動家、ミュージシャン、アーティスト、NPO団体、次々にガンなどの病気を治しているお医者さん、余命宣告を受けたにも関わらずいろいろな方法で病気を乗り越えた方々などの取材を行いました。また、取材した映像を少しでも早くたくさんの人に届けるために、映画制作だけでなく、取材した映像をDVD化して、映画製作のサポートをして頂いた方にお送りしました。これまで、映画を観てくれた多くの方が、NPOを作ったり、ゴミ拾いチームを作ったりして動き出しています。今後も、見た人が動き出したいくなるきっかけの映像を製作して、世の中にある希望をより多くの人に伝えていきます。

足あと

- 2006年3月 映像部発足。小豆島を拠点に映画「107+1~天国はつくるもの~ Part2」の撮影開始
- 2007年1月 カンボジアを取材、撮影
- 4月 第一回中国内モンゴル植林ツアーを取材、撮影
- 6月 豪快な号外の取材、撮影開始
- 9月 素材の編集開始・第二回中国内モンゴル植林ツアーを取材、撮影
- 11月 吉村医院の取材開始・月刊てんつくマン販売開始
- 2008年3月 第三回中国内モンゴル植林ツアーを取材、撮影
- 11月 ブラジル植林の視察を取材、撮影
- 12月 ホノルルマラソンを取材、撮影
- 2009年3月 予告編の完成
- 9月 げんきのたね夢楽で試写会を実施
- 11月 映画「107+1~天国はつくるもの~ Part2」完成。自主上映を開始し、全国同時上映会、全国上映ツアーを実施
- 2010年7月 映画「107+1~天国はつくるもの~ Part2.5」製作のため、映像部再発足
- 2010年8月 インタビュー映像の製作開始
- 2010年11月 映画用に取材した映像をDVD化し、映画製作のサポートをして頂いた方へ送付開始
- 2010年12月 命はやわじゃない! がんサバイバーホノルルマラソンツアーを取材



啓発事業

ツアー・イベント 2010年事業報告

■ 活動概要

たくさんの人と人が繋がり、同じ志を持つ仲間ができることで、その後の人生が大きく変わります。MAKE THE HEAVENでは、「1人の100歩よりも100人の1歩」で世界を変えていくために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、たくさんの仲間と出会うことができる場所を提供しています。2010年は、MAKE THE HEAVEN全体で、計30回以上のツアーやイベントを開催し、多くの出会いやきっかけを提供することができました。

C'MON TOUR (カモンツアー)

映画「107+1 ～天国はつくるもの～ Part2」が完成し、感謝の想いを込めて、監督のてんつくマンが全国を回る上映ツアー「カモンツアー」を開催しました。2009年11月から2010年2月までに、47都道府県、51会場を回り、多くの感動ときっかけを与えました。

カンボジアの天使が舞い降りる JAPANTOUR vol.4 2010

2010年8月16日から8月31日の16日間、カンボジアのバサックスラムの子どもたちが日本にやってきました。子どもたちが踊るクメールダンス、ライブやトークなど盛りだくさんのイベントを、小豆島・神戸・三重・静岡・東京の5会場で行い、キャンプなどを通して、日本とカンボジアの子どもたちが交流を図りました。小さな体で、めいっぱい今を生きているカンボジアの子どもたちとの出会いは、日本の子どもたちだけでなく、沢山の大人たちにも忘れていた何かを思い出させ、いっぱいの笑顔と元気を与えてくれました。

■ ジャパンツアー in 三重の主催者感想

何ごとにも熱くなれない俺が心から本気で成功させたいと思ったイベントでした。カンボジアと日本、お互いの生きる！という姿をリアルに感じてほしくて、言葉がわからないことなんて関係なく、最高に楽しくワイワイしようと思いました。当日は、カンボジアっ子のフレッシュで可愛すぎる踊りにとても元気をもらって、ライブの時は会場全体が肩を組んで一体になってとても温かい空間になりました。おかげ様でイベントは大成功しました。沢山の協力してくれた方々に本当に感謝しています。(H.T.さん 男性(18))



カンボジアスタディツアー

「まずは行ってみよう。」「まずはやってみよう。」「きっとその先に何かがあるはず。」を合い言葉にカンボジアのキラキラな子どもたちの笑顔に会ってほしいという想いから人生を変えちゃうツアーを夏と冬の2回行いました。ツアーでは、孤児院やスラムの子ども達に会いに行ったり、ごみ山を見学したり、井戸掘り体験、船に乗って村の子ども達に会いに行ったり、カンボジアの歴史を学んだりしています。大切な何かを思い出し、笑顔が増えるツアーです。

植林・間伐ツアーイベント

ワンフェスのツアーでは、植林・間伐を実際に行う他、講師を招いて今の地球の環境や平和について学んだり、自然に抱かれて森と一体となりながら感じるワークショップを行ったり、音楽で世界を平和にしたい、笑顔を増やしたいと活動しているアーティストのライブなどを行ったりしました。中身の濃いツアーを通して、お互いの想いを共有でき、同じような志を持つ仲間と出会うことで、ツアー後も、地方ごとに活動する仲間が集って、お互いの夢を応援しあったりして、全国で繋がりが広がっています。

げんたねツアーイベント

毎年恒例のイベントとして、年末年始に「大忘新年会」、ゴールデンウィークに「春の夢祭」、夏休みに「旬夏集島」を行いました。旬夏集島では、2010年はJAPANツアーの小豆島と同時開催を行い、カンボジアの子どもたちと一緒に楽しみました。また、毎月1回「てんつくマンと語るかい」を行い、さまざまなゲストとのトークセッション、音楽ライブ、自然塾、ピザ作り、カレー作りなど、様々な企画を行いました。他にも、田んぼで昔ながらの手植えと手刈りを楽しめる、「うた植え祭」と「稲刈りん祭」など開催し、様々な人の元気を増やし動き出すきっかけを提供しました。

インターンの受け入れ

2010年は、げんたねとカンボジアにそれぞれ1人ずつインターンを受け入れ、NPOの活動を体験してもらいました。

げんたねでの受け入れ

8月12日～9月20日までの1ヶ月間、大学のインターンシップで、げんきのたね夢楽のボランティアスタッフを体験しに来てくれました。滞在中には、カンボジアの子どもたちとの交流や、稲刈りなど1年の中でも大きな行事が重なって「本当に貴重な体験ができた」と喜んでげんきのたね夢楽を旅立って行ってくれました。(A.B.さん 女性大学生(20))

カンボジアでの受け入れ

支援先であるバサックスラムや孤児院、プノンペン市内にある日本語学校などにて、日本語を教えてもらいました。また、MAKE THE HEAVEN CAMBODIAの全ての支援先に行き、どんな活動をしているのか知ってもらいました。初めは緊張していましたが、カンボジアの子どもたちの一生懸命勉強する姿が励みとなり、日本語を教えることを楽しんでいました。また、子どもたちと長い時間を一緒に過ごす中で、子どもたちからたくさんの心の宝物をもらい、自分にも出来ることがあると自信をつけて、日本へ帰っていきました。(C・Cさん 女性(28))



MAKE THE HEAVEN GOODS

MAKE THE HEAVEN では、いろいろなグッズを販売しています。商品の売上が支援につながっています。ここでは一部の商品をご紹介します。その他の商品は「web shop 楽喜天」にて販売しています。http://maketheheaven.shop-pro.jp/

■ マイ箸&伸びるフォークセット 定価1,575円(内税)

このセットに使われている箸袋は、カンボジアのブレイクラン村や孤児院のおばちゃんたちが、心を込めて作っているフェアトレード商品です。この箸袋の制作と売上が村の人たちの生活を助け、孤児院では運営資金となっています。その箸袋とマイ箸、のびるフォークがセットになっています。のびるフォークができたきっかけは楽しくマイ箸を広めたいとてんつくマンのひらめきからでした。MAKE THE HEAVENのおすすめグッズです。



■ ワンフェスタオル 定価1,500円(内税)

「人と森をつなぐレインボータオル」と名付けられました。このタオルには「虹をかけ、森を増やそう!」というメッセージがこめられています。このタオルの売上は、苗木の一部になります。このタオルが売れることで、木が植えられ地球に緑が増えるということです。直接、木を植えることができなくても、緑が増えるお手伝いができます。



■ ワンカフェ One Cafe (インスタント 定価1,200円 豆・粉 定価1,000円)

ワンカフェは、ブラジルのジャカラダ農場をはじめエクアドル、メキシコで丹誠込めて栽培されたオーガニックコーヒーです。森林農法といって、従来の森を残したままでコーヒーの木も栽培されます。自然にも人にもやさしいフェアトレードコーヒーです。そして、この商品も売上の一部が植林の苗木代になります。コーヒーを飲むことが植林へとつながります。



■ ちびさん本 定価 1,000円

この本は世の中の孤独感を一つでもなくしたいという思いから生まれました。誰かに愛されてる、守られてることが分かったら、人は元気になります。孤独感を減らして、元気と感動を増やす本、それが、ちびさん本「おきもちときました」なのです。そして、この本を販売することがきっかけで人と人とのつながりが生まれたりいいなと思い、全国には販売店さんがいます。



■ 健康小冊子シリーズ 定価 525円・630円

「牛乳はモー毒?」「ごはんはえらい!」「37℃のふしぎ」など、(株)美健ガイド社発行の小冊子は、今の日本人にとって知ってほしいことがわかりやすく、マンガになっています。三代先の子どものことを思い、今の現実をありのまま伝えていきます。この小冊子が子どもから大人までたくさんの方に読んでいただけるように販売しています。



■ 映画「107+1天国はつくるもの パート2」 サントラCD 定価 3,000円

パート2で使われた全曲19曲が収録されています。10組以上の様々なアーティストの曲が映画のシーンに合わせて選ばれました。このCDを聞けば、映画のシーンが思い起こされます。また、勇気や元気がわいてくる豪華なCDに仕上がっています。



■ 最初の日ステッカー 定価 100円

ステッカーに書かれたメッセージは「Today is the first day of the rest of my Life」～今日という日は残りの人生の最初の日～ てんつくマンの力強い文字で書かれています。2010年度、最もたくさんの方にお買い上げいただいた商品です。



■ おかんCD「人として」 定価 1,050円

映画「107+1天国はつくるもの パート2」の中で使われた曲が収録されています。おかんの代表作の一つ。子どもから大人まで、幅広い年齢層に歌われています。ボーカルDAIが書いた歌詞も聞いた人をひきつける魅力です。収録曲①人として②幸せのカチチ③娘



著者てんつくマンの書籍。

■ 答 (サンクチュアリ出版) 定価1,575円(内税)

1998年11月から路上に座って筆文字パフォーマンスを続けてきた著者が、延べ1万2千人を前に書いたメッセージの中から、現代に生きる人々が抱える悩みに対して「答」えている48の言葉を選び、その筆文字メッセージと解説的エッセイをつけた本です。



■ やさしすぎる君へ (サンクチュアリ出版) 定価1,155円(内税)

路上詩人が10万人に贈り届けた 愛と勇気のメッセージ集です。この本を読んだら自分のことがもっと好きになる、心がすっと軽くなる自分らしくいられることが幸せなんだからって思える一冊です。



■ あんたの神様 (サンマーク出版) 定価1,470円(内税)

動けば自分の花が咲く「あんたの神様」映画づくり、海外支援、環境活動…本気で動いたときには、最強のサポーターふだんはただのおっさん(女好き)そんなへんな神さま=「安永さん」と語った、てんつくマン流人生の歩き方が掲載された一冊です。サンマーク出版より発売中です。



■ 感動無き続く人生に興味なし (サンクチュアリ出版) 定価1,260円(内税)

原宿の路上から始まり全国の路上に座り、15万人以上の人にインスピレーションでメッセージを書き綴った、勇気を刺激するてんつくマンの自叙伝。この本は、あなたを魂レベルで刺激する本です。



■ 天国はつくるもの (サンクチュアリ出版) 定価1,575円(内税)

「元気な人がさらに元気に」というコンセプトで創られた一冊この本を手取る人は間違いなく同志です。今を楽しみながら、未来に希望を残していきましょう。写真を見るだけで元気になるという、本当にパワフルな写真集です。



■ そばにいるから (サンクチュアリ出版) 定価1,260円(内税)

てんつくマンの作品の中から、とくに温かいメッセージを厳選しました! 筆文字とマツオミホさんのイラストのコラボレーションが、あなたの心を「ほっ」とさせる絵本です。



会員・募金・スポンサー

MAKE THE HEAVEN では、支援の内容に応じて、いろいろなサポート方法がありますので、ご紹介します。



■ MAKE THE HEAVEN 会員 ■

MAKE THE HEAVEN の会員になることができるスポンサー制度です。頂いたお金は全額、NPO 法人 MAKE THE HEAVEN の各種プロジェクトの活動支援費に使わせて頂きます。会員になって頂くことで、総会への出席権や会員専用の情報発信などをさせていただきます。詳細：http://maketheheaven.com/egao/?page_id=1133

■ 天国はつくるもの基金 ■

MAKE THE HEAVEN 全体の募金制度です。緊急支援 め組 JAPAN の募金はこちらになります。頂いたお金は NPO 法人 MAKE THE HEAVEN の各種プロジェクトの活動、および運営費に使わせて頂きます。詳細：<http://www.maketheheaven.com/kikin/>

■ エレファントスポンサー ■

MAKE THE HEAVEN が出版している、ちびさん本の販売店になることができるスポンサー制度です。頂いたお金は全額、NPO 法人 MAKE THE HEAVEN の各種プロジェクトの活動支援費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、ちびさん本のプレゼントや、卸値の割引があります。詳細：<http://www.maketheheaven.com/erefant/>

■ ワンフェス賛同スポンサー ■

植林・間伐活動プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (以下ワンフェス)」のスポンサー制度です。頂いたお金は全額、ワンフェスの活動運営費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、ホームページでの広告掲載、記念グッズプレゼントの他、ワンフェスが行った植林・間伐地に設置する記念看板にお名前を入れさせていただきます。詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=2>

■ 一元募金 ■

ワンフェスが行っている一元玉の募金制度です。集まった募金は全額、ワンフェスが行っている植林活動の苗木代に使わせて頂いています。詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=1>

■ げんきたねまきスポンサー「ムラクル(夢楽来る?) 会員」 ■

げんきたねまきプロジェクト、「げんきたね夢楽(以下げんきたね)」のスポンサー制度です。頂いたお金は全額、げんきたねをより多くの方が元気になる空間にするための活動費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、げんきたねで作っている季節に応じたオリジナルグッズを、プレゼントさせていただきます。

詳細：http://gentanemura.org/ricelife/?page_id=863

■ パパママ大作戦!カンボジア奨学金 ■

学校に通えないカンボジアの子どもたちへ奨学金を贈る、教育里親の支援制度です。1口(1万円)で1人の子どもが、1年間学校に通うことができます。サポートして下さった方に、ご支援いただくわが子(奨学生)の写真付き報告書(奨学金証書)や、カンボジアのわが子本人から手紙が届きます。詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/O2ppmm/O1pm/>

■ My 井戸大作戦 ■

カンボジアで綺麗な水が使えなかったり、遠くに水を汲みに行かないといけなかった地域に、井戸を提供する支援制度です。1口(3万円)で1基の井戸を掘ることができます。完成した井戸には、支援者の皆さまが見つけたお名前を、プレート、または井戸の看板に描かせて頂きます。詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/O3mydp/O1ido/index.html>

■ 学校建築 ■

カンボジアの学校がない村に、学校を建築するための支援制度です。詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/O7gakkou/O1gakkou/index.html>

■ カンボジア支援 ■

カンボジアのスラムや孤児院で生活する子どもたちの生活全般を支援する制度です。また、バサックスラムの子どもたちに1ヶ月分のお米とおかずを支援する、「米米マン」「おかずマン」という制度もあり、支援していただいた方々のお名前をHPに掲載させていただきます。詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/O5kikin/2bokin.html>
*カンボジア支援活動プロジェクトは、以上4種類のサポートを募集しております。なお、すべてのサポート制度は、頂いたお金はカンボジア支援活動の運営費に使わせて頂きます。

■ 2.5 サポート基金 ■

NPO 法人 MAKE THE HEAVEN が現在製作している映画、「107+1 ~天国は作るもの~ Part2.5」のスポンサー制度です。頂いたお金は全額、映画制作費に使わせて頂きます。1口(5000円)ごとに1枚ずつ、現在映画制作のために取材している方々のインタビュー映像(非売品)をプレゼントさせていただきます。詳細：<http://maketheheaven.com/form/part2ten5.html>

2010年 会計報告

収支計算書

2010年1月1日～2010年12月31日

■ 収入の部

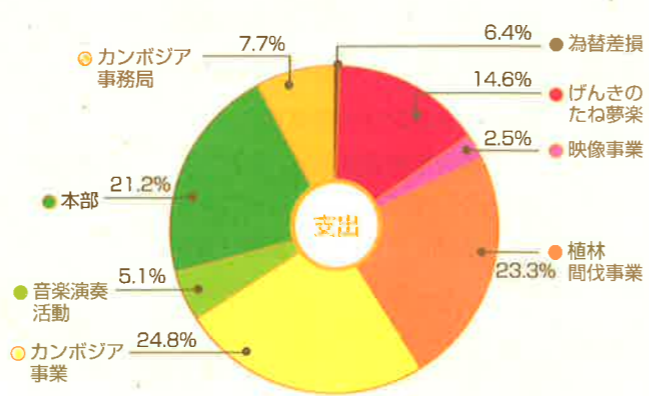
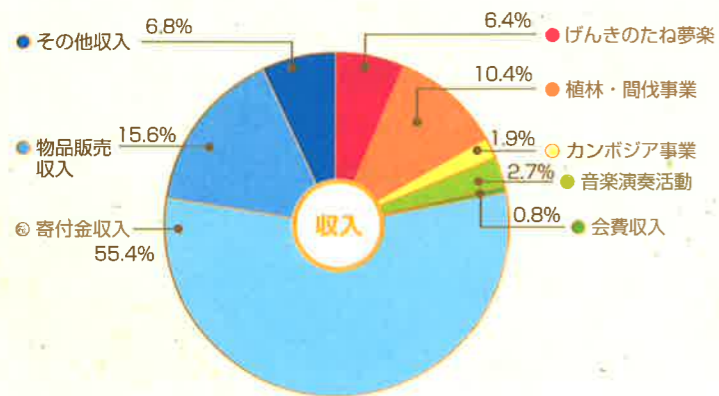
(単位：円)

1.事業収入	げんきのたね夢楽	7,255,540	24,186,193
	植林・間伐事業	11,793,148	
	カンボジア事業	2,101,330	
	音楽演奏活動	3,036,175	
2.会費収入 ※注1			866,000
3.寄付金収入 ※注2			62,511,823
4.物品販売収入			17,642,488
5.その他収入 ※注3			7,700,142
当期収入合計			112,906,646
前期繰越収支差額			4,992,586
収入合計			117,899,232

■ 支出の部

(単位：円)

1.事業費	げんきのたね夢楽	16,394,305	78,995,799
	映像事業	2,813,607	
	植林・間伐事業	26,163,265	
	カンボジア事業	27,904,367	
	音楽演奏活動	5,720,255	
2.管理費 ※注4	本部	23,903,386	32,599,920
	カンボジア事務局	8,696,534	
3.為替換算差損			925,161
4.法人税、住民税、および事業税			16,600
当期支出合計			112,537,480
当期収支差額			369,166
次期繰越収支差額			5,361,752



貸借対照表

2010年12月31日現在

■ 資産の部

(単位：円)

流動資産	現金	2,248,531
	預金	21,535,323
	売掛金	1,993,503
	短期貸付金	1,600,000
	未収入金	2,262,578
	その他	276,580
流動資産合計		29,916,515
資産合計		29,916,515

■ 負債の部

(単位：円)

流動負債	未払金	2,688,748
	前受金	55,000
	預り金	1,811,015
流動負債合計		4,554,763
負債合計		4,554,763

■ 正味財産合計

(単位：円)

	事業積立金	20,000,000
	次期繰越収支差額	5,361,752
正味財産合計		25,361,752
負債及び正味財産合計		29,916,515

注1 会費収入内訳

(単位：円)

正会員	250,000
賛助会員	600,000
マンスリーサポーター	16,000
会費収入計	866,000

注3 その他収入内訳

(単位：円)

発送等手数料収入	3,015,047
出向負担金収入	1,030,000
その他収入	3,655,095
その他収入計	7,700,142

注2 寄付金収入内訳

(単位：円)

メイクザヘブン本部	7,362,882
げんきのたね夢楽	5,614,838
映画製作	5,590,409
植林・間伐活動	3,352,288
一元募金(苗木代)	3,102,179
キッズエール基金	1,260,000
パバママ大作戦	5,060,124
まいど大作戦	3,875,000
御縁募金	8,625,329
学校建築	10,136,514
カンボジア支援	8,532,260
寄付金収入計	62,511,823

注4 管理費内訳

(単位：円)

人件費	16,351,707
運送費	3,845,981
商品仕入高	3,465,085
印刷製本費	1,562,221
旅費交通費	1,455,267
支払手数料	1,350,449
支払報酬	776,363
その他	3,792,847
管理費計	32,599,920

監査報告書

特定非営利活動法人MAKE THE HEAVENの2010年度決算について、事業は適切に実施され、また、収支計算書及び貸借対照表は、経営状況及び財政状態を適正に表示しているものと認めます。

2011年 3月 10日

監事 二瓶 明 氏